

2005年度「NIE効果測定調査」結果報告
(2006年7月)

財団法人 日本新聞教育文化財団 博物館・NIE委員会

はじめに

4回目を数える「NIE効果測定調査」は、2005年度の新規NIE実践校として同年9月以降に実践を始めた226校を対象に、過去3回（96年度、98年度、02年度）とほぼ同様の調査内容・手法で実施いたしました。

調査は、NIEの実践を通じて新聞閲読、子どもたちの関心、学習態度がどのように変化したかを明らかにするため、児童・生徒に対してはNIE実践前と終了時の2回に分けてアンケートにお答えいただき、先生方には実践終了後にご回答いただきました。2度にわたって調査にご協力いただいた実践校の方々にはあらためてお礼申し上げます。

調査結果からは、NIEの実践を通じて児童・生徒が新聞に親しみ、社会へ関心を向けるようになった様子が見て取れるだけでなく、新聞が家族や友人との対話のきっかけとなっていることも浮き彫りになりました。また、学校の先生方が子どもたちに期待する「社会への関心を高める」「多面的な見方・考え方を身に付ける」「文章の読解力・表現力を向上させる」といった力が、NIEの実践を通じ児童・生徒たちの身に付いていることもうかがえます。一方で、「教材研究の時間がない」など、学校現場の現状を踏まえたNIEに取り組む難しさも先生方からご指摘いただきました。

本調査で明らかになったNIE実践の効果が、広く教育行政や保護者の方々にも紹介されることで、NIEに対する認知を広げ、一人でも多くの先生方がNIEに取り組むきっかけとなれば幸いです。

財団法人 日本新聞教育文化財団
博物館・NIE委員会
NIE第一専門部会

調査内容

(1) 調査対象

2005年度新規NIE実践校226校の児童・生徒および教師

(2) 調査目的

NIEの実践前と実践後で、新聞の閲読頻度、よく読む記事などの変化をみるとともに、NIE実践を通して身に付く学習効果を明らかにする。

(3) 調査方法

郵送法(実践教師および児童・生徒が各学級単位で個人記述)

(4) 回答者数

<児童・生徒>

		実践前(147校)	実践後(120校)
小学校	男性	837	666
	女性	796	620
	計	1,633	1,286
中学校	男性	1,022	728
	女性	989	714
	計	2,011	1,442
高等学校	男性	660	554
	女性	799	648
	計	1,459	1,202

<教師>

	学校数	回答数
小学校	41	128
中学校	42	132
高等学校	32	105
計	115	365

(5) 調査期間

2005年9月～2006年3月

(6) 調査項目

< 児童・生徒編 >

- 1 新聞の閲読頻度
- 2 新聞の閲読時間
- 3 よく読む記事
- 4 情報源
- 5 新聞記事をめぐる対話の頻度
- 6 新聞記事をめぐる話し相手
- 7 学習能力の向上 (N I E 実践後に好きになったこと)
- 8 N I E による関心の変化
- 9 N I E の授業評価
- 10 授業で時事問題やニュースを取り上げることへの評価

< 教師編 >

- 1 新聞提供以前の新聞活用実績と N I E の経験年数
- 2 新聞の閲読時間
- 3 注意して読む記事
- 4 新聞活用頻度の変化
- 5 新聞活用実績 (実践時間)
- 6 新聞活用実績 (教科・領域)
- 7 新聞活用後の児童・生徒の変化
- 8 新聞活用の難しさと期待

調査結果

< 概要 >

NIEを通じて児童・生徒の新聞の閲読頻度は、小学生（実践前75.0% 実践後81.9%）中学生（70.2% 74.9%）高校生（66.6% 68.6%）と、校種を問わず拡大しており、NIEの実践で児童・生徒の閲読習慣が芽生えていることが明らかになっている。

閲読時間については、実践前には「5分未満」が約半数を占めるなど児童・生徒の新聞に接触する時間は限られていたが、実践後にはこの層が減少し、「5～15分」「15～30分」と閲読時間が確実に増加した。よく読む記事については、「ラ・テ欄」「天気」「事件・事故」「スポーツ」「マンガ」が多く、実践後もこの傾向は変わらなかったが、すべての校種で「事件・事故」の順位があがっており、NIEの実践で児童・生徒の目が社会へ向けられようになったことが明らかになっている。

情報源として最も利用しているのは「テレビ・ラジオ」で、いずれの校種でも5～7割を占め、これに「インターネット」「新聞」が続いた。ただし、「地域・地元のできごと」の情報源は「家族」が1位で、NIEの実践後には「新聞」も順位を上げている。実践後、「新聞」によって国内ニュースを知ると答えた児童・生徒も増えている。

新聞記事でだれかと対話しているかと聞いたところ、「よく話し合う」と「時々話し合う」を合わせると、小学生が58.3%（実践前52.0%）、中学生42.1%（同37.2%）、高校生39.0%（同35.2%）と、NIE実践後は新聞記事をきっかりに話し合うことが増えており、新聞を使った授業が児童・生徒のコミュニケーション力を養っていることがうかがわれる。

特に「家族」と話し合うと答えた割合はNIE実践後に、小学校で13.6ポイント、中学校で17.1ポイント、高校は16.9ポイントも増加している。「友人」についても、小学校26.7ポイント、中学校18.4ポイント、高校で20.7ポイント増えている。

NIE実践後に好きになったことを挙げてもらうと、小学校の上位は「文章を読むこと」（43.9%）「調べて詳しく知ること」（42.1%）「漢字を覚えること」（28.9%）、中学校では「文章を読むこと」（50.2%）「人の意見を聞くこと」（24.5%）「調べて詳しく知ること」（21.7%）、高校では「文章を読むこと」（43.8%）「人の意見を聞くこと」（27.3%）「調べて詳しく知ること」（18.3%）となっており、NIEが読解力の向上、コミュニケーション能力の育成、調べ学習などに有効であることが分かる。

NIEの授業を受けて、関心を持つようになったことは、校種にかかわらず「事件・事故」との回答が最も多く、日々のニュースに対する関心が高いことが明らかになっている。

校種別に見ると、小学校では「地域・地元のこと」（27.4%）「環境・福祉」（22.2%）、中学校は「政治・経済」（24.6%）「外国のこと」（19.0%）、高校は「政治・経済」（25.6%）「環境・福祉」（19.3%）の順となっている。授業における新聞活用の違いを反映していると思われるが、総じて小学生はどの事柄においても関心が高く、実践を通して様々な事に興味を持つようになっており、中学・高校では「政治・経済」への関心が高い。

新聞を活用している教科は、小学校では教科書でも新聞が取り上げられている「国語」が最も多く、次いで「社会」「総合」。中学校では「社会、地歴、公民」「国語」の順、高校でも同様であった。

NIE実践後の児童・生徒の変化については、8割弱の教師が「新聞を進んで読むようになった」と答えたほか、「記事について友人や家族と話すようになった」「読むこと、書くことが増えた」「自分で調べる態度が身に付く」「生き生きと学習する」といった項目で、6割以上の教師が児童・生徒の学習態度の変化を指摘した。

教師に新聞活用の難しさを聞くと、最も多かったのは「教材研究の時間が足りない」で、「児童・生徒には新聞は難しい」「カリキュラムとの調整が難しい」と続く。一方、NIEへの期待で最も多かったのは「社会への関心を高める」で、「多面的な見方・考え方が身に付く」「文章の読解力・表現力が向上する」との回答が多かったが、これまで見てきたとおり教師の期待はNIEの実践後、児童・生徒の変化として表れているようだ。

このようにNIEの実践で児童・生徒は多くの成果を得ることができるが、先生方にとっては「教材研究の時間がない」など、学校現場の現状に照らすとNIEに取り組むためには依然として多くの課題が存在することも浮き彫りになっている。

以 上

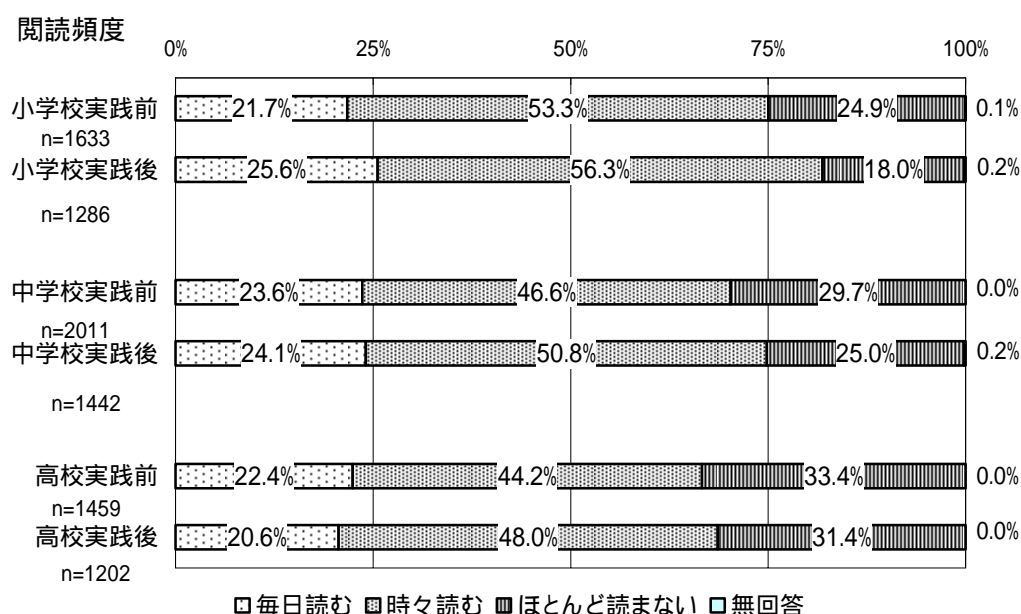
< 児童・生徒編 >

1. 閲読頻度の変化

新聞を読んでいる（「毎日読む」または「時々読む」と答えた人）人をNIE実践前後で比較すると、小学生（75.0% 81.9%）、中学生（70.2% 74.9%）、高校生（66.6% 68.6%）を問わず、どの年代でもNIEをきっかけに閲読頻度が増えている。

小学生では「新聞をほとんど読まない」が、24.9%から実践後には18.0%へ減少しており、特に小学生の女子では、「毎日読む」が19.7%から実践後には25.3%と増え、積極的に新聞に関わる変化が見られる。

中学、高校の実践前は男子の方がやや積極的な閲読傾向がみられるが、「ほとんど読まない」中学、高校の女子が、NIE実践によって減少する傾向がみられる。



*表・グラフの数値は、四捨五入の関係で各回答項目の比率を合計しても、100%にならない場合がある。(以下同じ)

	n	毎日読む	時々読む	ほとんど読まない	無回答
小学男子実践前	837	23.7%	51.5%	24.9%	0.0%
小学男子実践後	666	25.8%	54.2%	20.0%	0.0%
小学女子実践前	796	19.7%	55.2%	25.0%	0.1%
小学女子実践後	620	25.3%	58.5%	15.8%	0.3%
中学男子実践前	1022	26.9%	47.9%	25.1%	0.0%
中学男子実践後	728	27.1%	49.5%	23.4%	0.1%
中学女子実践前	989	20.2%	45.3%	34.5%	0.0%
中学女子実践後	714	21.0%	52.1%	26.6%	0.3%
高校男子実践前	660	25.6%	44.5%	29.8%	0.0%
高校男子実践後	554	23.8%	45.5%	30.7%	0.0%
高校女子実践前	799	19.8%	43.9%	36.3%	0.0%
高校女子実践後	648	17.9%	50.2%	31.9%	0.0%

2. 閲読時間の変化

NIE実践前は、どの校種においても閲読時間は「5分未満」がほぼ半数を占めていた。なかでも最も高いのは高校生で55.7%、次いで中学生52.9%、小学生49.1%の順だった。実践後では「5分未満」の割合が、高校生52.6%、中学生45.7%、小学生43.2%と減少する一方、「5～15分」「15～30分」が確実に増加し、「30～60分」もわずかながら上昇した。

	n	5分未満	5～15分	15～30分	30～60分	60分以上	無回答
小学校実践前	1633	49.1%	33.3%	12.7%	3.7%	0.8%	0.4%
小学校実践後	1286	43.2%	35.7%	16.3%	3.6%	0.9%	0.3%
中学校実践前	2011	52.9%	31.8%	11.1%	3.1%	0.5%	0.5%
中学校実践後	1442	45.7%	34.0%	15.5%	3.5%	1.1%	0.3%
高校実践前	1459	55.7%	29.6%	10.0%	3.6%	0.6%	0.5%
高校実践後	1202	52.6%	30.7%	11.5%	4.5%	0.6%	0.2%

3. よく読む記事

実践前には「よく読む記事」として、「ラジオ・テレビ欄」、「天気」、「事件・事故」、「スポーツ」、「マンガ」が挙げられ、小、中、高とも同様の傾向がみられた。実践後もこの傾向にあまり変化はないが、「事件・事故」の順位がすべての校種で上がっている。また上位5位には入らないが「社会」面と答えたのは小学生が12.8%から17.3%、中学生が13.0%から19.1%、高校生が16.6%から20.5%と増加し、社会への関心につながっていることがわかる。

	実践前	実践後
小学生	1位 ラ・テ欄(62.1%) 2位 マンガ(61.1) 3位 天気(50.2) 4位 スポーツ(46.6) 5位 事件・事故(46.3)	1位 ラ・テ欄(64.8%) 2位 マンガ(56.9) 3位 事件・事故(50.1) 4位 スポーツ(49.3) 5位 天気(40.5)
中学生	1位 ラ・テ欄(74.7) 2位 スポーツ(46.6) 3位 天気(37.8) 4位 マンガ(36.7) 5位 事件・事故(36.2)	1位 ラ・テ欄(73.6) 2位 スポーツ(46.6) 3位 事件・事故(38.8) 4位 天気(33.6) 5位 マンガ(33.1)
高校生	1位 ラ・テ欄(77.0) 2位 スポーツ(42.2) 3位 天気(35.3) 4位 事件・事故(34.5) 5位 芸能(23.9)	1位 ラ・テ欄(77.1) 2位 スポーツ(42.1) 3位 事件・事故(36.2) 4位 天気(33.1) 5位 芸能(24.9)

よく読む記事	n	政治	経済	外国	社会	事件・事故	スポーツ	地域	教育	福祉・健康
小学校実践前	1633	7.0%	3.4%	10.5%	12.8%	46.3%	46.6%	11.3%	12.8%	2.1%
小学校実践後	1286	7.5%	5.8%	9.4%	17.3%	50.1%	49.3%	13.7%	13.3%	1.8%
中学校実践前	2011	12.1%	5.4%	10.1%	13.0%	36.2%	46.6%	10.1%	11.5%	1.1%
中学校実践後	1442	13.9%	9.2%	11.3%	19.1%	38.8%	46.6%	10.1%	20.2%	1.3%
高校実践前	1459	11.3%	6.8%	8.9%	16.6%	34.5%	42.2%	15.6%	9.0%	2.3%
高校実践後	1202	11.0%	8.2%	9.7%	20.5%	36.2%	42.1%	19.7%	14.1%	3.3%

よく読む記事	n	科学	文化・芸術	家庭	読書	芸能	投書	社説	コラム	対談
小学校実践前	1633	9.8%	5.5%	4.5%	5.3%	18.1%	0.5%	0.4%	1.3%	0.1%
小学校実践後	1286	10.1%	3.8%	4.3%	6.6%	21.2%	0.9%	0.9%	2.6%	0.2%
中学校実践前	2011	4.9%	3.9%	1.7%	4.5%	20.4%	2.8%	1.3%	2.5%	0.1%
中学校実践後	1442	5.1%	4.6%	1.9%	4.1%	25.1%	3.1%	1.7%	3.2%	0.6%
高校実践前	1459	3.3%	4.8%	1.5%	3.3%	23.9%	3.4%	2.8%	3.8%	0.3%
高校実践後	1202	3.6%	6.7%	2.4%	3.7%	24.9%	4.9%	4.3%	4.9%	0.4%

よく読む記事	n	インタビュー	ラ・テ欄	俳句	囲碁・将棋	趣味	マンガ	天気	広告	その他
小学校実践前	1633	3.9%	62.1%	2.1%	4.7%	4.7%	61.1%	50.2%	20.8%	2.8%
小学校実践後	1286	5.4%	64.8%	1.6%	5.0%	5.0%	56.9%	40.5%	21.5%	3.4%
中学校実践前	2011	5.0%	74.7%	1.7%	2.6%	7.0%	36.7%	37.8%	18.8%	3.3%
中学校実践後	1442	7.0%	73.6%	1.7%	3.3%	7.6%	33.1%	33.6%	19.8%	2.4%
高校実践前	1459	4.4%	77.0%	1.0%	1.4%	8.0%	20.2%	35.3%	19.4%	2.9%
高校実践後	1202	5.1%	77.1%	0.6%	1.3%	8.4%	20.4%	33.1%	19.8%	1.6%

4. 情報源

「地域・地元のできごと」「自分が住んでいるところ以外の、日本国内のできごと」「外国のできごと」「スポーツニュース」のそれぞれについて、情報源としていちばん利用するものを挙げてもらった。「地域・地元のできごと」を除くと、5割から7割の人が「テレビ・ラジオ」から最も情報を得ており、「新聞」や「インターネット」がそれに続く。特に情報源としての「インターネット」は中学、高校生の層で台頭している。

実践後でも、同様の傾向はみられるが、「地域ニュース」「国内ニュース」については、「新聞」と答える人の割合が多くなっている。

	実践前	実践後
<地域・地元のできごと>		
小学生	1位 家族(33.2%) 2位 テレビ・ラジオ(25.8%) 3位 新聞(13.7%)	1位 家族(29.4%) 2位 テレビ・ラジオ(26.2%) 3位 新聞(16.8%)
中学生	1位 家族(26.0%) 2位 テレビ・ラジオ(20.3%) 3位 インターネット(15.2%)	1位 家族(22.7%) 2位 テレビ・ラジオ(18.4%) 3位 新聞(15.5%)
高校生	1位 家族(28.6%) 2位 テレビ・ラジオ(18.2%) 3位 新聞(12.8%)	1位 家族(27.9%) 2位 新聞(16.8%) 3位 テレビ・ラジオ(15.6%)

< 国内のできごと >

小学生	1位 テレビ・ラジオ(53.8%)	1位 テレビ・ラジオ(56.5%)
	2位 新聞(16.7%)	2位 新聞(17.1%)
	3位 インターネット(12.8%)	3位 インターネット(13.0%)
中学生	1位 テレビ・ラジオ(55.8%)	1位 テレビ・ラジオ(56.3%)
	2位 インターネット(20.3%)	2位 インターネット(19.7%)
	3位 新聞(12.7%)	3位 新聞(15.1%)
高校生	1位 テレビ・ラジオ(60.4%)	1位 テレビ・ラジオ(61.9%)
	2位 インターネット(22.3%)	2位 インターネット(20.4%)
	3位 新聞(9.8%)	3位 新聞(10.8%)

地域ニュース	n	新聞	雑誌	本	テレビ・ラジオ	インターネット	友達	家族	先生	行政広報	無回答
小学校実践前	1633	13.7%	1.5%	3.1%	25.8%	11.7%	4.8%	33.2%	1.9%	3.8%	0.4%
小学校実践後	1286	16.8%	2.6%	1.9%	26.2%	10.9%	5.6%	29.4%	1.7%	4.8%	0.2%
中学校実践前	2011	10.0%	2.3%	2.5%	20.3%	15.2%	12.0%	26.0%	1.6%	9.7%	0.4%
中学校実践後	1442	15.5%	1.5%	2.0%	18.4%	13.2%	10.4%	22.7%	1.7%	14.3%	0.2%
高校実践前	1459	12.8%	1.3%	0.8%	18.2%	12.7%	12.2%	28.6%	0.7%	12.4%	0.2%
高校実践後	1202	16.8%	0.6%	1.0%	15.6%	9.8%	13.1%	27.9%	0.7%	13.1%	1.5%

国内ニュース	n	新聞	雑誌	本	テレビ・ラジオ	インターネット	友達	家族	先生	行政広報	無回答
小学校実践前	1633	16.7%	1.7%	2.7%	53.8%	12.8%	1.5%	9.2%	0.7%	0.5%	0.4%
小学校実践後	1286	17.1%	1.5%	2.2%	56.5%	13.0%	1.6%	6.9%	1.2%	0.1%	0.1%
中学校実践前	2011	12.7%	2.0%	2.4%	55.8%	20.3%	1.7%	3.3%	1.2%	0.2%	0.2%
中学校実践後	1442	15.1%	1.1%	1.4%	56.3%	19.7%	1.9%	3.3%	0.8%	0.1%	0.2%
高校実践前	1459	9.8%	1.8%	1.0%	60.4%	22.3%	1.8%	2.2%	0.3%	0.0%	0.4%
高校実践後	1202	10.8%	1.2%	0.8%	61.9%	20.4%	1.6%	1.9%	0.6%	0.2%	0.5%

海外ニュース	n	新聞	雑誌	本	テレビ・ラジオ	インターネット	友達	家族	先生	行政広報	無回答
小学校実践前	1633	16.4%	1.6%	2.2%	60.0%	12.1%	0.8%	5.8%	0.6%	0.0%	0.5%
小学校実践後	1286	17.5%	2.0%	1.2%	58.9%	12.8%	0.9%	5.1%	1.1%	0.2%	0.3%
中学校実践前	2011	10.6%	1.3%	1.4%	58.9%	21.7%	1.5%	2.9%	1.2%	0.1%	0.3%
中学校実践後	1442	11.6%	1.2%	1.2%	59.2%	22.7%	1.2%	1.7%	0.7%	0.1%	0.3%
高校実践前	1459	7.9%	1.0%	0.8%	63.9%	23.0%	1.2%	1.3%	0.5%	0.0%	0.5%
高校実践後	1202	7.5%	1.2%	0.4%	62.8%	25.6%	0.7%	0.9%	0.5%	0.0%	0.2%

スポーツ	n	新聞	雑誌	本	テレビ・ラジオ	インターネット	友達	家族	先生	行政広報	無回答
小学校実践前	1633	24.1%	2.1%	0.6%	62.7%	4.2%	1.7%	3.9%	0.1%	0.1%	0.5%
小学校実践後	1286	24.0%	2.6%	1.4%	61.4%	5.8%	1.9%	2.7%	0.1%	0.0%	0.2%
中学校実践前	2011	16.7%	3.6%	0.8%	65.2%	9.1%	2.7%	1.3%	0.2%	0.1%	0.2%
中学校実践後	1442	16.6%	1.8%	0.6%	66.2%	10.0%	2.7%	1.2%	0.3%	0.0%	0.6%
高校実践前	1459	13.4%	2.0%	0.3%	71.5%	8.8%	2.7%	0.8%	0.0%	0.1%	0.4%
高校実践後	1202	12.0%	1.3%	0.2%	74.3%	9.0%	2.0%	0.9%	0.1%	0.0%	0.2%

5. 新聞記事をめぐる対話の頻度の変化

新聞記事の内容について誰かと話をする頻度は、NIE実践後の方が「話し合う」人の割合が増えている。特に小学生の6割弱は記事の内容について誰かと話をしている。「よく話し合う」と「時々話し合う」を合わせると、小学生は58.3%（実践前52.0%）、中学生42.1%（同37.2%）、高校生39.0%（同35.2%）となっている。

対話の頻度

	n	よく話しあう	時々話しあう	ほとんど話し合わない	無回答
小学校実践前	1633	7.1%	44.9%	47.8%	0.2%
小学校実践後	1286	8.0%	50.3%	41.3%	0.4%
中学校実践前	2011	3.1%	34.1%	62.7%	0.1%
中学校実践後	1442	3.3%	38.8%	57.7%	0.2%
高校実践前	1459	3.6%	31.6%	64.2%	0.5%
高校実践後	1202	3.2%	35.8%	60.8%	0.2%

6. 記事をめぐる話し相手

新聞で読んだことを誰と話すかを尋ねたところ、NIE実践後に「家族」「友人」を挙げる人が7割～8割と非常に多くなる。実践前と比較すると小学校全体では「家族」の割合が13.6ポイント、中学全体では17.1ポイント、高校全体では16.9ポイント増加している。「友人」についても、小学校全体で26.7ポイント、中学校全体で18.4ポイント、高校全体で20.7ポイント増加している。小学校では、「先生」の割合も3.2%から18.5%へ増加しており、男女で比較すると、男子は「友人」、女子は「家族」と話す割合が高い。

新聞の記事をめぐって、他者とのコミュニケーションの機会が確実に増加し、なかでも「家族」との交流が深まっている様子がうかがえる。

	家族		友人		先生		その他	
	実践前	実践後	実践前	実践後	実践前	実践後	実践前	実践後
小学全体	66.7%	80.3%	43.6%	70.3%	3.2%	18.5%	2.0%	3.2%
小学男子	58.3%	78.1%	46.3%	71.7%	3.2%	15.7%	2.2%	3.5%
小学女子	74.5%	82.4%	41.0%	68.8%	3.2%	21.3%	1.8%	2.9%
中学全体	54.4%	71.5%	53.9%	72.3%	2.5%	8.1%	0.5%	1.5%
中学男子	42.8%	63.2%	61.9%	81.1%	3.7%	8.8%	0.8%	1.0%
中学女子	66.5%	79.4%	45.5%	64.0%	1.4%	7.4%	0.3%	1.9%
高校全体	55.4%	72.3%	51.6%	72.3%	1.2%	7.9%	1.6%	1.7%
高校男子	43.6%	60.4%	61.9%	80.2%	1.4%	9.4%	0.9%	2.6%
高校女子	64.2%	80.5%	43.9%	66.8%	1.0%	6.9%	2.0%	1.1%

(実践前)
 小学全体 n=849
 小学男子 n=410
 小学女子 n=439
 中学全体 n=748
 中学男子 n=381
 中学女子 n=367
 高校全体 n=514
 高校男子 n=218
 高校女子 n=296

(実践後)
 小学全体 n=750
 小学男子 n=375
 小学女子 n=375
 中学全体 n=607
 中学男子 n=296
 中学女子 n=311
 高校全体 n=469
 高校男子 n=192
 高校女子 n=277

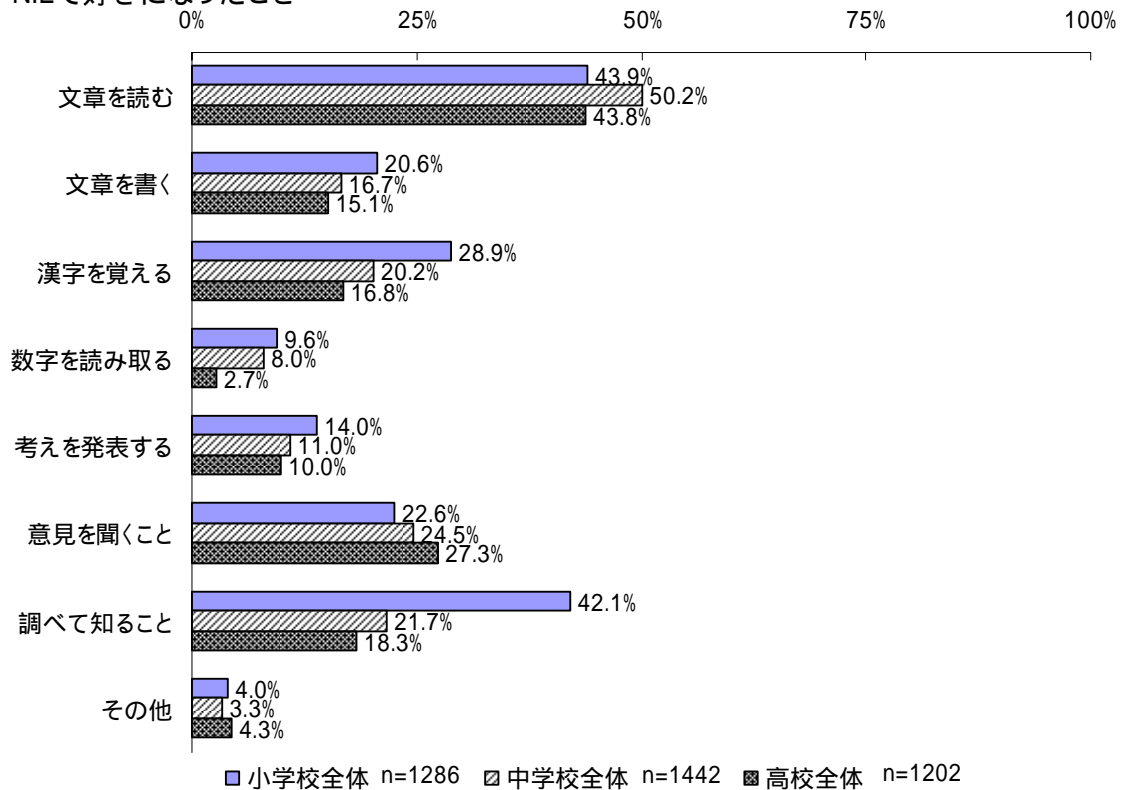
7. 学習能力の向上 (NIE 実践後好きになったこと) *以降の質問は実践後のみの質問

NIE の授業を受けて好きになったことを3つまで挙げてもらった。

小学校の上位は「文章を読むこと」(43.9%)、「調べて詳しく知ること」(42.1%)、「漢字を覚えること」(28.9%)、中学では「文章を読むこと」(50.2%)、「人の意見を聞くこと」(24.5%)、「調べて詳しく知ること」(21.7%)、高校では「文章を読むこと」(43.8%)、「人の意見を聞くこと」(27.3%)、「調べて詳しく知ること」(18.3%)となっており、NIE が読解力の向上、コミュニケーション能力の育成、調べ学習などに有効であることがわかる。

男女別で比較すると、「文章を書くこと」が好きになったと答えた小学生の女子が27.4%で男子より13.1ポイント高い。中学では「数字を読み取ること」「考えを発表すること」を挙げるのは男子が多く、「意見を聞くこと」は女子が多かった。

NIEで好きになったこと



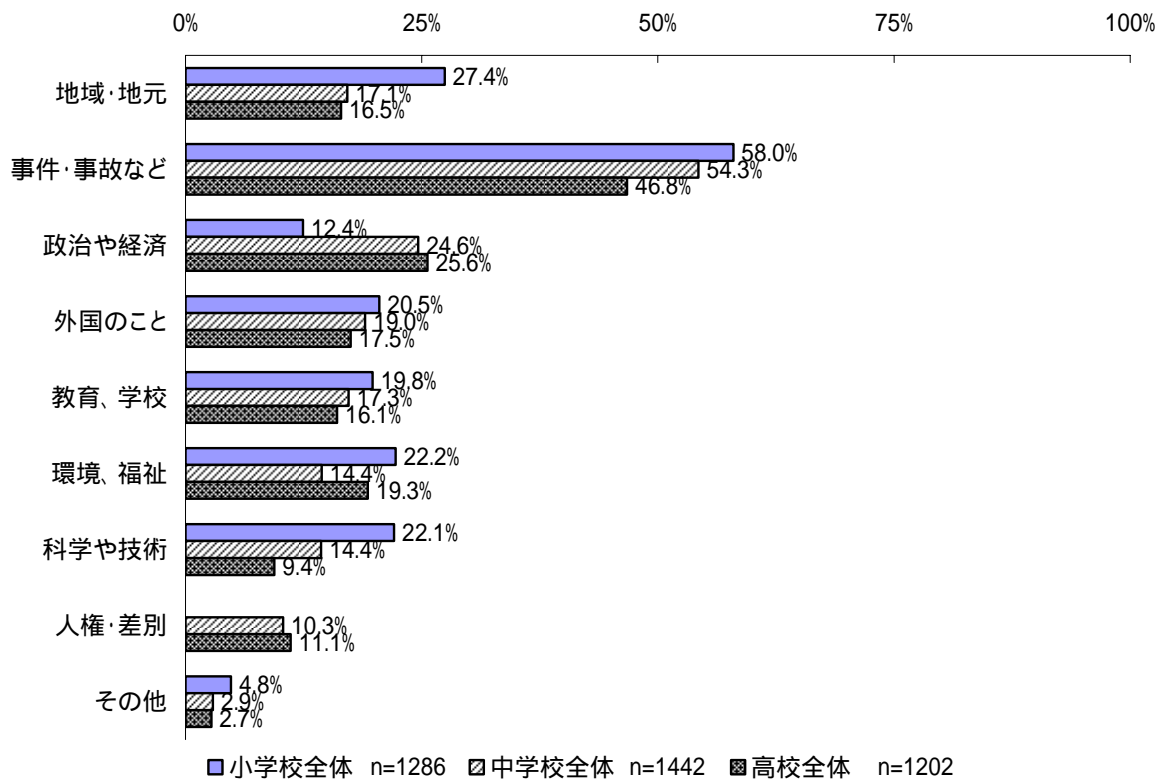
	文章を読む	文章を書く	漢字を覚える	数字を読み取る	考えを発表する	意見を聞くこと	調べて知ること	その他
小学男子 666	41.6%	14.3%	30.8%	12.9%	16.1%	20.3%	38.0%	4.2%
小学女子 620	46.5%	27.4%	26.9%	6.0%	11.8%	25.0%	46.5%	3.9%
中学男子 728	49.2%	15.2%	21.8%	11.3%	13.0%	22.0%	22.8%	3.6%
中学女子 714	51.3%	18.2%	18.5%	4.6%	8.8%	27.2%	20.6%	3.1%
高校男子 554	42.4%	14.3%	17.0%	4.7%	11.9%	23.5%	16.6%	5.6%
高校女子 648	45.1%	15.9%	16.7%	0.9%	8.3%	30.6%	19.8%	3.2%

8 . N I E による関心の変化

N I E の授業を受けて、関心を持つようになった事柄を3つまで挙げてもらった。校種にかかわらず1位は「事件・事故」で、日々のニュースに対する関心は高い。続いて小学校では「地域・地元のこと」(27.4%)、「環境、福祉」(22.2%)、中学校は、「政治・経済」(24.6%)、「外国のこと」(19.0%)、高校は「政治・経済」(25.6%)、「環境・福祉」(19.3%)の順となっている。

授業における新聞活用の違いを反映していると思われるが、小学生は総じてどの事柄においても関心が高く、実践を通じ様々な事に興味を持つようになっており、中学・高校では「政治・経済」への関心が高い。男女で比較すると、「政治・経済」「外国のこと」「科学・技術」で男子の関心が高く、「教育、学校」「環境、福祉」「人権、差別」では女子の関心が高い。

NIEによる関心の変化



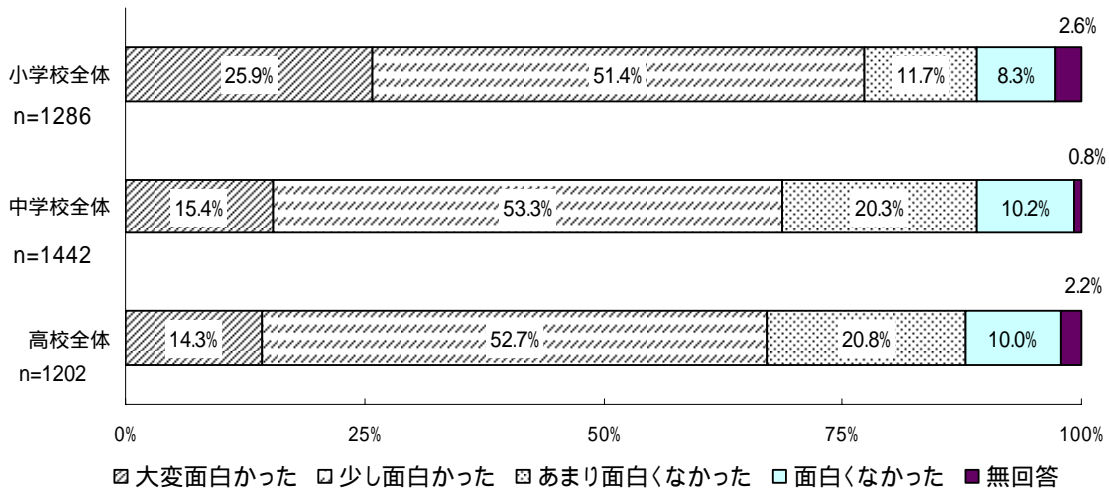
	地域・地元	事件・事故 など	政治や経済	外国のこと	教育、学校	環境、福祉	科学や技術	人権・差別	その他
小学男子 666	25.7%	53.8%	14.6%	22.1%	13.8%	16.7%	28.5%	-	5.6%
小学女子 620	29.4%	62.6%	10.2%	18.9%	26.3%	28.2%	15.2%	-	4.0%
中学男子 728	17.4%	53.3%	26.8%	19.4%	15.5%	12.2%	20.2%	8.2%	2.5%
中学女子 714	16.8%	55.3%	22.4%	18.6%	19.0%	16.7%	8.4%	12.5%	3.4%
高校男子 554	15.3%	39.4%	30.1%	19.3%	10.8%	16.6%	14.4%	7.9%	3.8%
高校女子 648	17.4%	53.1%	21.8%	15.9%	20.5%	21.6%	5.1%	13.9%	1.9%

* 人権・差別については中学生、高校生のみ聞いた

9. NIEの授業評価

NIE実践後に新聞を使った授業について聞いたところ、小学校の77.3%、中学校の68.7%、高校の67.1%の児童・生徒が面白かった(「大変面白かった」「少し面白かった」の合計)と答え、新聞が魅力ある教材であることが明らかになっている。

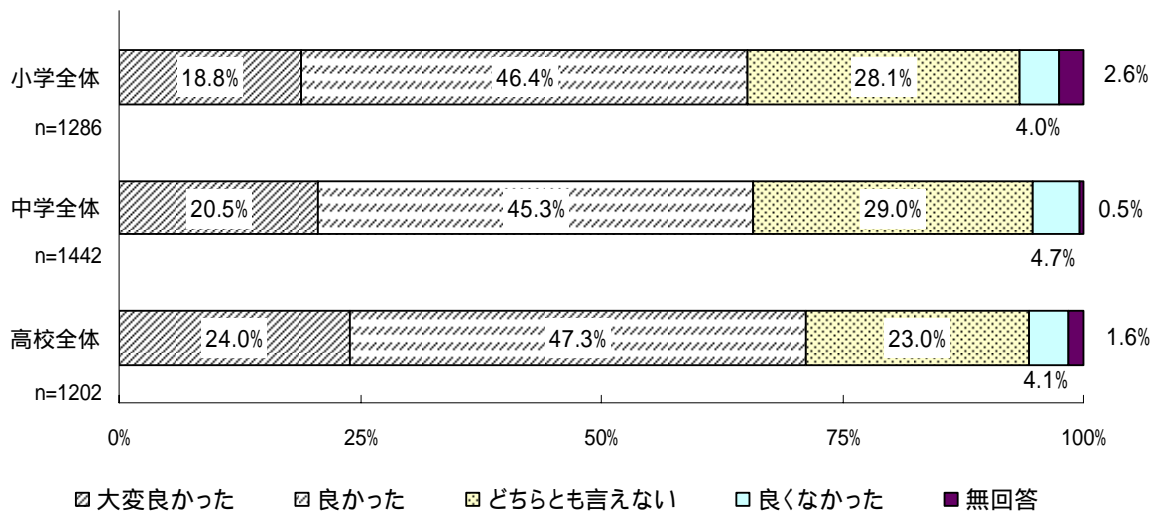
NIEの授業評価



10. 授業で時事問題やニュースを取り上げることの評価

授業で時事問題やニュースを取り上げることについては、校種に関わらず高く評価されている。「大変良かった」と「良かった」と答えた人の合計は、小学校で65.2%、中学校で65.8%、高校で71.3%と、学年が上がるほど時事問題へ関心が高まっている様子が見える。また「良くなかった」と答えた人の割合は4%台で非常に少なかった。

授業で時事問題やニュースを取り上げること



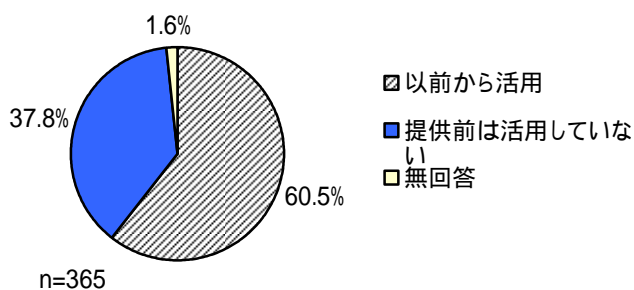
< 教師編 >

1. 財団からの新聞提供以前のNIE実践

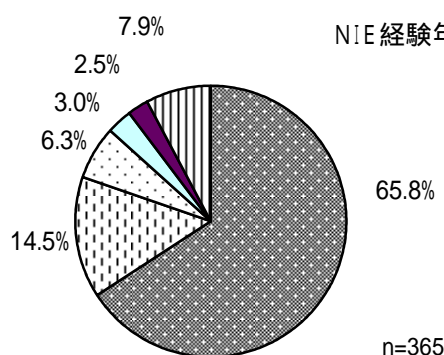
財団の新聞提供を受ける前から授業に新聞を活用していた教師は6割以上で、新聞が教材として有益であることは広く認知されている。以前に新聞を活用していなかった37.8%の人にとっては、提供事業が新聞を活用するきっかけとなっている。

NIEの授業を始めてどのくらいかという質問には、「1年」という回答が最も多く(65.8%)、「2~5年」(14.5%)を合わせると5年以下が全体の約8割を占めた。

新聞活用授業の経験



NIE 経験年数

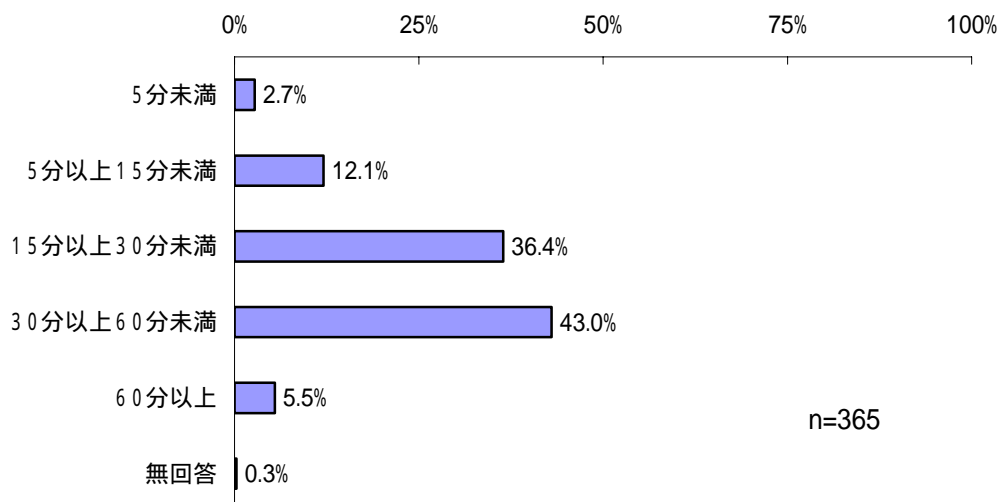


■1年 □2-5年 □6-10年 □11-15年 ■16年以上 □無回答

2. 新聞閲読時間

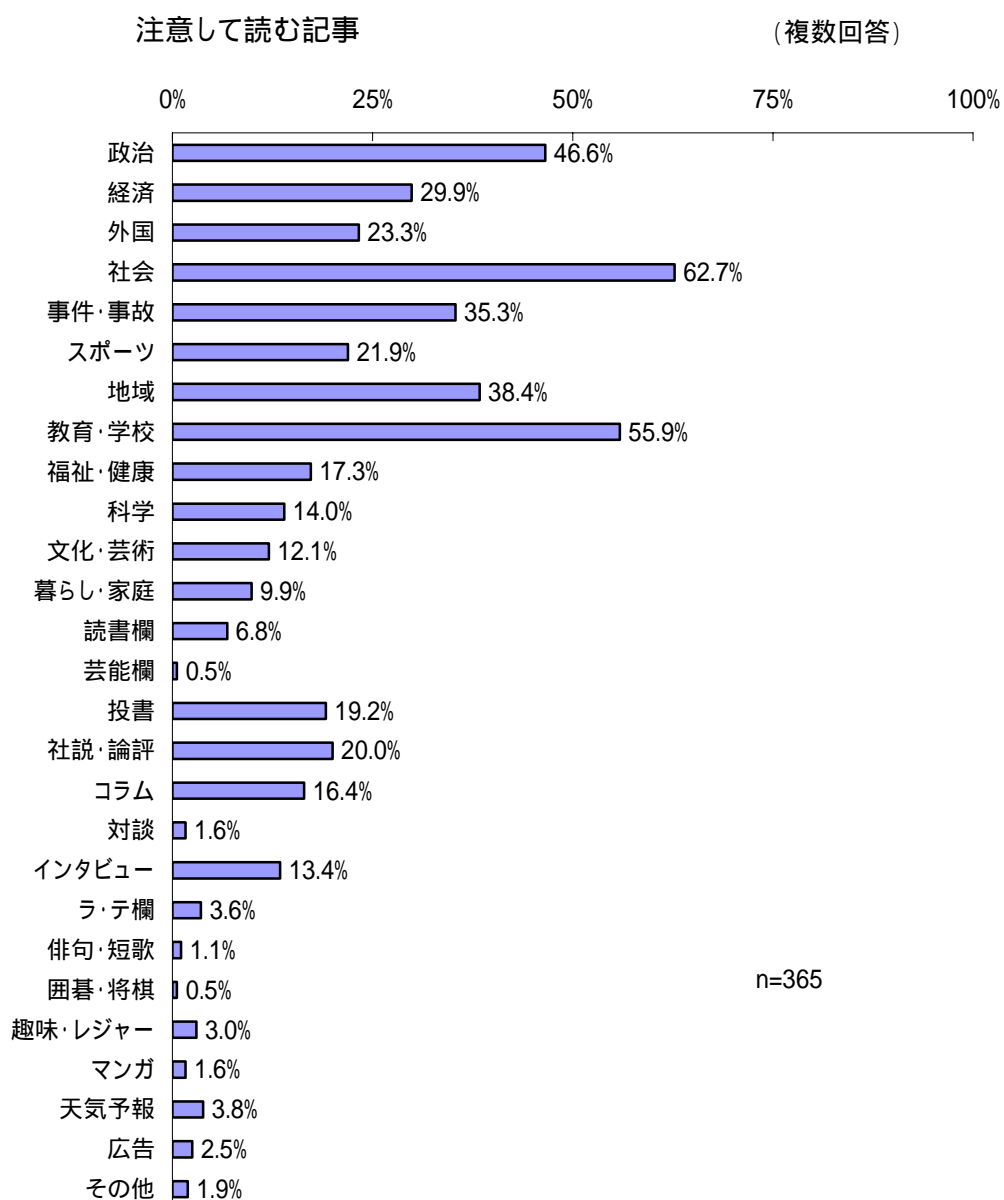
NIEを実践している教師に1日あたりの新聞閲読時間を聞いてみた。「30分以上60分未満」と答えた人が43.0%で最も多く、続いて「15分以上30分未満」(36.4%)、「5分以上15分未満」(12.1%)だった。

教師の新聞閲読時間



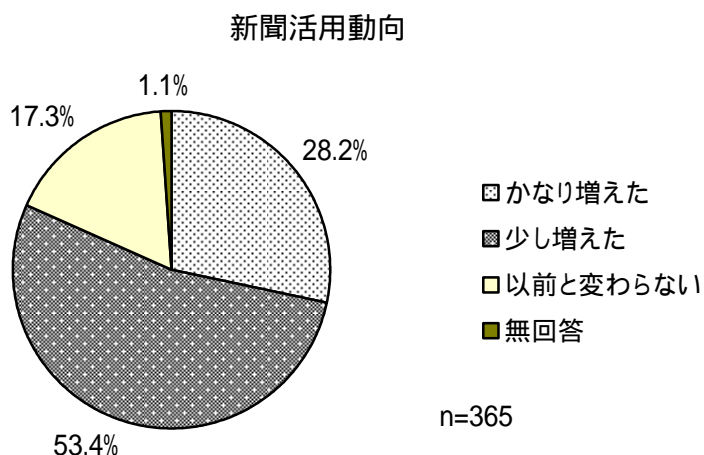
3. 新聞の読み方の変化（注意して読む記事）

新聞提供が始まってからどのような記事を注意して読むようになったかを尋ねた。最も注目されているのは「社会」（62.7%）で、次が「教育・学校」（55.9%）である。このほか「政治」（46.6%）、「地域」（38.4%）、「事件・事故」（35.3%）などへの関心が高かった。



4．新聞活用動向

提供事業が始まってから新聞を活用する回数が増えた（「かなり増えた」と「少し増えた」人の合計）と答えた人は8割を超えた（81.6%）。「かなり増えた」は28.2%で、授業や教科外活動の中で積極的に活用されていることがわかる。



5．授業実施時間

実際に学校に新聞が提供（9月から3月までの約半年間）されてから、およそのNIE授業時間の合計を尋ねた。

NIE実践授業時間

5時間未満	24.9%
10時間未満	19.2%
15時間未満	15.1%
20時間未満	6.0%
25時間未満	6.0%
30時間未満	0.5%
35時間未満	3.0%
40時間未満	1.4%
45時間未満	3.3%
50時間未満	0.0%
50時間以上	1.9%
不明	18.6%

最も多かったのが「5時間未満」の24.9%、続いて「5時間以上10時間未満」(19.2%)、「10時間以上15時間未満」(15.1%)となっている。約7割の教師が「30時間未満」で実践を行っていた。

前回調査と比較すると、「5時間未満」が増えており、NIEの授業時間数がやや減る傾向がみられた。

6. 新聞を活用している教科、領域について

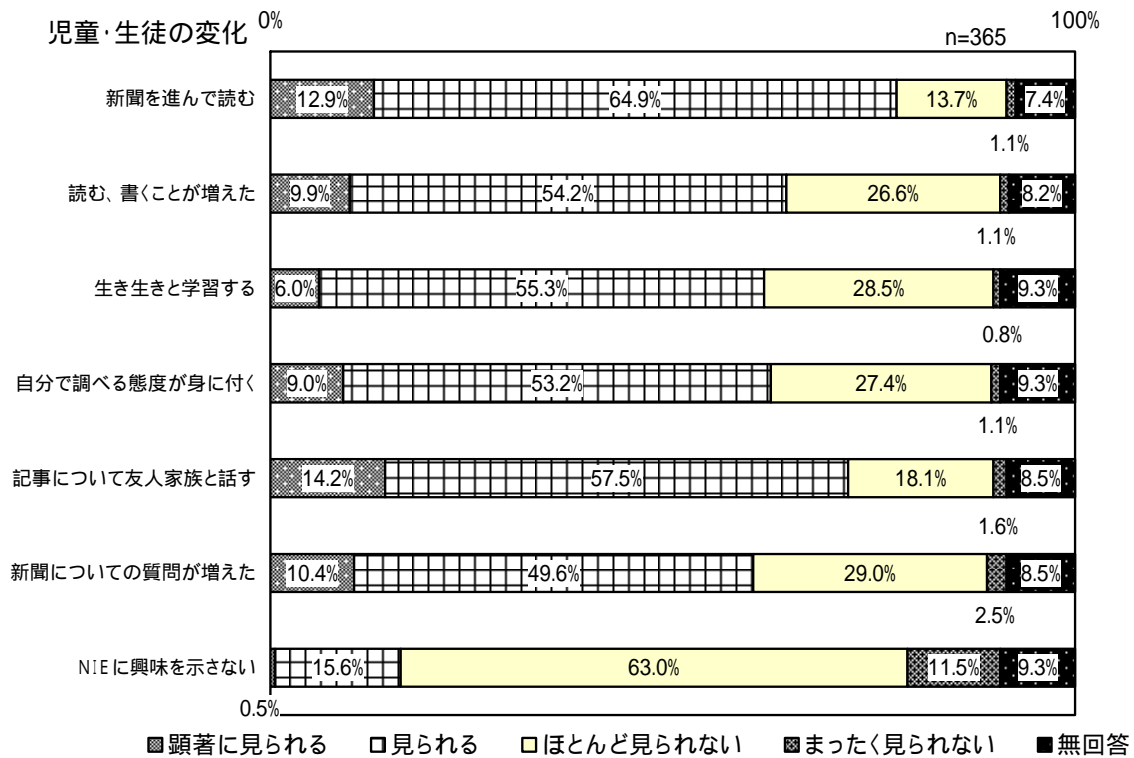
下表のとおり、新聞は様々な教科、領域で活用されている。小学校は、「国語」で最も活用されており（63.3%）、続いて「社会」（56.3%）「総合学習」（35.2%）となっている。中学では「社会、地歴、公民」（31.8%）「国語」（22.0%）の順である。高校でも「社会、地歴、公民」（37.1%）「国語」（22.9%）の授業でよく活用されているが、このほか、小学校の「理科」（13.3%）「道徳」（10.9%）、中学校の「理科」（8.3%）「総合」（7.6%）、高校の「技術・家庭」（7.6%）が目立った。

この傾向は前回調査と同様であるが、「総合」「特別活動」での実施の割合が前回調査に比べ低くなっている。

区分	小学校	n=128	中学校	n=132	高校	n=105
国語	81	63.3%	29	22.0%	24	22.9%
社会、地歴、公民	72	56.3%	42	31.8%	39	37.1%
算数、数学	8	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
理科	17	13.3%	11	8.3%	6	5.7%
生活	1	0.8%	-	-	-	-
音楽	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
図工、美術	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%
外国語	-	-	3	2.3%	1	1.0%
家庭、技術・家庭	1	0.8%	6	4.5%	8	7.6%
体育・保健体育	1	0.8%	2	1.5%	6	5.7%
道徳	14	10.9%	6	4.5%	-	-
特別活動	7	5.5%	4	3.0%	7	6.7%
総合学習	45	35.2%	10	7.6%	5	4.8%
無回答	6	4.7%	28	21.2%	25	23.8%

7. 新聞活用後の児童・生徒の変化

NIEの実践を通して、児童・生徒にどんな変化がみられたかを尋ねた。最も変化が見られたのは「新聞を読むこと」で、8割弱の教師が「新聞を進んで読むようになった」(「顕著に見られる」と「見られる」の合計)と答えている。また、「記事について友人や家族と話すようになった」(71.7%)「読む、書くことが増えた」(64.1%)「生き生きと学習する」(61.3%)「自分で調べる態度が身に付く」(62.2%)「新聞についての質問が増えた」(60.0%)といった項目で、6割以上の教師が児童・生徒の学習態度の変化を感じている。



8. 新聞活用の難しさや期待

新聞を教材として活用する際の難しさについて、1位から3位まで順位をつけて答えてもらった。最も多くの教師が1位に挙げたのは「教材研究の時間が足りない」で29.0%。続いて「児童・生徒には新聞は難しい」(18.6%)、「カリキュラムとの調整が難しい」(18.1%)だった。2位は「指導時間が足りない」を挙げた人が最も多かった。

前回2003年の調査では、同じ質問で2位までを挙げてもらっている。単純比較は出来ないが、「教材研究の時間が足りない」「カリキュラムとの調整」「新聞は難しい」という傾向は変わらず、引き続きNIE実践の課題となっている。

新聞活用の難しさ

	1位	2位	3位
教材研究の時間が足りない	29.0%	21.6%	17.8%
指導時間が足りない	17.0%	23.6%	15.3%
使いたい記事がない	8.5%	12.1%	12.3%
カリキュラムとの調整が難しい	18.1%	22.2%	15.9%
指導方法が分からない	4.7%	4.4%	8.2%
児童・生徒には新聞は難しい	18.6%	9.3%	17.8%
その他	0.3%	1.4%	0.8%

N=365

新聞活用で期待することを、1位から3位まで順位をつけて選んでもらった。最も期待されているのは「社会への関心を高める」ことで、4割以上の教師が1位に挙げている。その他、「多面的な見方・考え方が身に付く」「文章の読解力・表現力が向上する」ことへの期待が高い。

新聞提供が始まってからの児童・生徒の記事に対する関心の変化(p.12)をみると、実践後に最も関心を持つようになったのは「事件・事故」の記事だった。また、NIE実践後に好きになったこと(p.11)では、「人の意見を聞くこと」「文章を読むこと」の割合が高く、教師の期待どおりに児童・生徒の学習態度に変化がみられる。

新聞活用で期待すること

	1位	2位	3位
授業が活性化する	8.2%	4.7%	8.5%
社会への関心を高める	42.7%	21.6%	15.6%
多面的な見方・考え方が身に付く	15.3%	24.9%	20.5%
文章の読解力・表現力が向上する	9.9%	19.2%	16.7%
批判力・判断力が育つ	2.7%	9.3%	10.4%
新聞に興味・関心をもつ	14.2%	11.2%	13.4%
友人・家族との意見交流が活発になる	0.8%	3.0%	7.9%
新聞活用に期待しない	0.3%	0.0%	0.0%
その他	0.3%	0.0%	0.0%

N=365